

令和6年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R6成果目標(指標)	備 考	
事業番号	バ 細			R6事業内容	R6活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1	①	宜野湾市西海岸エリア活性化事業	H24 ～ R13	沖縄西海岸の中心に位置するアクセス性の高い立地を生かして、各種イベントを開催し、観光産業の振興を図る。	「琉球海炎祭」、「はごろも祭り」、「産業まつり」の開催を支援する。	・琉球海炎祭・・・来場者数1.25万人 ・はごろも祭り・・・来場者数10万人 ・産業まつり・・・来場者数2.8万人 ・海浜公園周辺宿泊施設宿泊者数 ⇒コロナ禍前の水準であるH30年度実績と同等数を目標値とする。 H30年度実績:279,874人 【目標値】:28万人	【今後のスケジュール】 今後も観光産業の振興を図るため、「琉球海炎祭」、「はごろも祭り」、「産業まつり」が継続して開催ができるように支援を行い、市西海岸地域の入域客数をコロナ禍前の水準値である年間約220万人(H30)を目指す。	・イベント開催ができた過去の実績をベースに来場者の約5%増を成果目標とする。 ・宿泊施設の宿泊者数はコロナ禍以前の水準を目標として設定した。
1	②	企画展開催事業	H24 ～ R13	市民や観光客に宜野湾市への理解を深めてもらうため、普天間飛行場をとりまく歴史を中心に企画展を開催する。	企画展の開催:年2本	企画展1本あたりの平均入館者数:1,390人以上	【目標】 R6年度:企画展1本あたり平均入館者1,390人以上	入館者のうち観光客数を正確に把握することが直ちには困難であるため、入館者数を成果目標とする。
1	③	横浜DeNAベイスターズグリーンコミュニティ事業	H25～ R13	プロ野球のキャンプは、温かい沖縄を全国にアピールする絶好の機会であり、横浜DeNAベイスターズのキャンプ地である宜野湾海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信する。	1万鉢の花の植樹	キャンプ会場の装飾(花)に対する来場者の満足度 80%以上	【今後のスケジュール】 今後も美ら島沖縄、宜野湾を全国へPRし、観光産業の振興を推進するため、グリーンコミュニティ事業を継続して支援し、来場者の満足度80%以上になるように取組む。	【R6成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
1	④	宜野湾海浜公園施設等再編整備事業	H30 ～ R10	特別な支援を要する園児児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図るため、恩納村立幼小中学校に特別支援教育支援員を配置し、個に応じた指導・学びの場の設定を行う。	再編整備工事(サブエントランス・照明灯整備)の実施	再編整備工事(サブエントランス・照明灯整備)の完了	【R11成果目標】 施設利用者数 655,000人 【今後のスケジュール】 R6:再編整備工事(サブエントランス・照明灯整備)	【R11成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
1	⑤	ぎのわん美ら海クリーン活動支援事業	R3 ～ R13	宜野湾市の海は本島周辺地域でも有数のサンゴ礁が広がるきれいな海である。しかしその認知度が低いことから、サンゴの植樹、海の清掃活動を通じ広報活動を行う、ぎのわんマリン協会を支援することで、観光資源を保全しながら本市の新たな観光コンテンツの開発することを目的とする。	ぎのわんマリン協会の支援	ダイビング・シュノーケリング客:800人/年	【今後のスケジュール】 サンゴの植樹、清掃活動等を継続して実施しながら、本市の美ら海をPRし、観光コンテンツとして確立することで、ダイビング観光客数を前年度比5%増を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。

R6活動目標(指標):令和6年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。

R6成果目標(指標):令和6年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和6年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R6成果目標(指標)	備 考	
事業番号	バ 細			R6事業内容	R6活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2	①	スクールソーシャルワーカー活用事業	H24 ～ R13	スクールソーシャルワーカー(SSW)を配置し、学校及び関係機関と連携しながら不登校や問題行動の未然防止、早期対応、改善に取り組む。	○SSW13名の配置 ○SSWによる児童生徒の支援数428名（支援数は前年度実績）	不登校や課題の改善に向けて変容が見られた割合、前年度実績以上	【今後のスケジュール】 支援対象者は、長期的な支援が必要である場合が多いため、今後も継続した支援体制を整え、不登校含め課題の改善に向けて変容が見られた割合、前年度実績45%以上を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 不登校等課題を抱える児童生徒や保護者の支援として、効果があったと考えられる値として設定した。
2	②	適応指導教室事業	H24 ～ R13	不登校児童生徒の学校適応を促進するため、児童生徒の居場所づくりとして、宿泊・自然体験学習及び他校との交流体験活動を実施する。	入級児童生徒の集団活動や学校適応等に関する支援を実施する。 (適応指導教室入級児童生徒数:2名)	入級児童生徒が適応指導教室または原籍校へ登校できた日数:出席すべき日数の65%	【今後のスケジュール】 他の適応指導教室との宿泊学習での交流や講師を招いての体験交流会等を行い、集団生活に適応するための意識向上やコミュニケーション能力向上を図るための支援を行い、入級児童生徒が適応指導教室又は原籍校へ登校できた割合(出席すべき日数に対する登校日数)について、65%以上を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 令和4年度及び令和5年度の実績を参考に設定。 【出席日数/出席すべき日数】
2	③	児童生徒等相談事業	H24 ～ R13	臨床心理士、青少年教育相談指導員を配置し、相談等支援をとおして、不登校等の課題の改善に取り組む。	○臨床心理士等5名の配置 ○臨床心理士等による児童生徒の支援数214名 (支援数は前年度実績)	学校生活への適応や状況改善に向けて変容が見られた割合前年度実績以上	【今後のスケジュール】 支援対象者は、長期的な心のケア等が必要である場合が多いため、今後も継続した支援体制を整え、学校生活への適応や状況改善に向けて変容が見られた割合、前年度実績18%以上を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 不登校等課題を抱える児童生徒や保護者の支援として、効果があったと考えられる値として設定した。
2	④	非行防止等巡回活動事業	H24 ～ R13	街頭指導員を配置し、夜間街頭指導等を実施し青少年の健全育成に寄与するため関係機関や地域と連携しながら青少年の問題行動の未然防止、早期発見に取り組む。	○街頭指導員16名の配置 ○週3回、21時～23時頃、市内の公園を中心とした夜間街頭指導の実施 ○年1回研修の実施 ○特別街頭指導(中学卒業式)	・年間の街頭指導実績件数が、前年度実績の12%減	【今後のスケジュール】 深夜はいかいは非行の入口と言われるほど、不良行為との関わりが高いと言われている中、本県は気候や産業の形態から夜型社会と言われ、その影響は青少年にも及んでいると考えられる。そのため、今後も街頭指導員を配置し、青少年の非行の未然防止や早期発見・抑止効果を目的に、夜間街頭指導を実施し、関係機関と連携し青少年の健全育成に取組み年間の街頭指導実績件数が、前年度実績の12%減を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 昨年の実績を勘案して設定した。

R6活動目標(指標):令和6年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものを記載している。

R6成果目標(指標):令和6年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和6年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R6成果目標(指標)	備 考	
事業番号 バ 細				R6事業内容	R6活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2	⑤	学習支援員活用事業	H24 ～ R13	児童生徒の学習状況や定着状況に応じて学習支援をすることにより、児童が自ら学ぶ意欲を高め、基本的な学習内容を理解するため、授業内容をきめ細かくサポートする学習支援員を配置し、個々の学力に応じた学習指導を行うことで、学力の向上を図る。	小、中学校において児童生徒の学習状況や定着状況に応じて個に応じた学習指導を行うことで、基礎的・基本的な知識技能の習得を図り、学習意欲を高め、学力の向上を図る。	沖縄県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差 ・小学校 算数: +2.0ポイント以上 ・中学校 数学: -6ポイント以上 県学力調査(6月、2月実施)の正答率30%未満の児童生徒の割合(県平均差)を県学力調査 正答率30%未満の子の割合について、小中学校ともに県平均との差を-1ポイント減少(6月と2月比較)	【今後のスケジュール】 今後も、小、中学校において学力の定着に遅れがちな児童生徒に対して、個に応じた学習指導を行うことで、基礎的・基本的な知識技能の習得を図り、学習意欲を高め、学力の向上を図る。支援を継続することにより、沖縄県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差を ・算数: +2.0ポイント以上 ・数学: -6ポイント以上 正答率30%未満の児童生徒の割合について、県平均との差を-1ポイントを維持することを着地点とする。	【R6成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
2	⑥	派遣費補助金交付事業	H24 ～ R13	児童生徒が部活動等で県外の大会へ派遣される際の航空運賃に対し、補助金を交付する。	県外へ派遣される団体への支援を実施 支援団体数: 27団体 (スポーツ活動団体: 24団体、文化活動団体: 3団体)	対象児童生徒の保護者へのアンケートの結果「補助を受けたことにより、県外の大会への参加が容易になった」: 80%以上	【今後のスケジュール】 保護者へのアンケート結果を勘案しながら、補助の対象範囲や補助額等を検討しつつ、事業を継続的にやっていく。対象児童生徒の保護者へのアンケートの結果「補助を受けたことにより、県外の大会への参加が容易になった」: 80%以上	【R6成果目標の考え方】 アンケート結果「県外の大会への参加が容易になった」80%は、大多数の児童生徒へ効果があつたと考えられる値として設定した。
2	⑦	スポーツ少年団派遣費補助事業	H25 ～ R13	スポーツ活動による児童・生徒の健全育成及び県外の人との交流の機会を増やすため、スポーツ少年団に加盟している団体等へ県外派遣を支援する。	県外へ派遣される団体等への支援を実施 支援人数(見込み): 200人	対象児童生徒の保護者へのアンケートの結果「子どもの視野が広がったと思う」: 90%以上	【今後のスケジュール】 R3のアンケート結果は、「視野が広がったと思う」が90%を超え、県外へ派遣された大多数の児童生徒の視野が広がったと考えられる。 今後はこの数値(90%)を維持するため、継続して支援を実施する。	【R6成果目標設定の考え方】 大多数の児童生徒の視野が広がったと考えられる値として設定した。

R6活動目標(指標): 令和6年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。

R6成果目標(指標): 令和6年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和6年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R6成果目標(指標)	備 考	
事業番号	バ 細			R6事業内容	R6活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
2	⑧	特別支援教育支援員派遣事業	H28 ～ R13	宜野湾市立の幼小中学校における特別な配慮を要する幼児・児童・生徒の支援者として特別支援教育支援員を派遣し、学校生活や学習上の困難の改善を図る。	特別支援教育支援員派遣 (幼稚園:10人、小学校46人、中学校16人)合計72人	・学校、保護者の満足度:95%以上 ・児童生徒の良い変容率:82%以上	【今後のスケジュール】 今後も宜野湾市立の幼小中学校における特別な配慮を要する幼児・児童・生徒の支援者として特別支援教育支援員を派遣し、学校生活や学習上の困難の改善を図るための支援を行う。 支援を継続することにより、 ・学校、保護者の満足度:95%以上 ・児童生徒の良い変容率:82%以上を保つことを着地点とする。	【R6成果目標設定の考え方】 昨年度の実績を勘案して設定した。
3	①	文化財保存整備事業	H24 ～ R13	文化財を適切に保存し、市民、観光客等に公開活用できるよう、文化財の石積修復や安全対策、修景などの整備を行う。	野嵩スティバナピラ石畳道の実施設計・用地測量を行う。	①野嵩スティバナピラ石畳道実施設計及び用地測量の完了	【R8成果目標】 ・地域文化財を活用した学習会等への参加人数 220人以上 【今後のスケジュール】 重要な文化財を景観・安全に配慮した保存整備を行い、文化教育、観光振興につなげる。 R6年度:実施設計 R7年度:保存整備工事 R8年度:公開	【R8成果目標設定の考え方】 類似の学習会(市教育委員会主催の文化財教室)等を参考に設定した。
3	②	歴史公文書等整理・活用事業	H24 ～ R13	市立博物館が所蔵する写真資料の整理を行い、写真データおよび歴史的公文書の公開を行う。	・写真資料の情報入力。 ・情報を入力した写真データの順次公開。 ・公開基準に基づいた公文書の順次公開。	・市の歴史や文化への理解が深まった方の割合:80%	【今後のスケジュール】 公文書と写真資料の整理(調査及び情報入力)を行い、これまでに整理を行った歴史公文書と並行して、順次公開をすすめ、アンケートにおいて本市の歴史や文化への理解が深まった方の割合が80%を超えることを目指す。	本事業のあり方については、アンケートにより検証する。
4	①	平和市民啓発事業	H24 ～ R13	戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する人材を育成するとともに、市民啓発により平和を希求する心を発信する。	【平和大使育成事業】 県内研修及び県外研修に派遣する人数 ・市内中学生:8名、青年層:1名 ・フォローアップ研修:1回 【平和祈念事業】 啓発イベント回数:5回実施	本事業に参加した生徒や市民からアンケートを実施し (1)「平和に対する理解が深まった。」 (2)「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う。」と回答する割合:80%以上	【今後のスケジュール】 事業を通して、戦争の悲惨さや命の尊さについて理解が深まり、平和の心を波及していく機会となったかアンケートにより検証する。また、令和13年度において平和大使として育成した延べ人数108人(9人×12年間※計画期間)を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。

R6活動目標(指標):令和6年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものである。

R6成果目標(指標):令和6年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものである。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和6年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R6成果目標(指標)	備考	
事業番号	バ細			R6事業内容	R6活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
4	②	英語教育推進事業	R4 ～ R13	英語指導助手(ALT)を小学校に1名～2名ずつ派遣し、児童の学力に応じた個々の学習指導を行うことで、学力(英語)の向上を図る。 また、英語指導助手(ALT)を中学校に1名ずつ派遣し、生徒の学力に応じた個々の学習指導を行うことで、学力(英語)の向上を図る。	・市内小学校9校へALT(各1～2名)を派遣 ・市内中学校4校へALT(各1名)を派遣	①ALT配置等による「英語が好き」な児童(小学校5・6年生)の割合85%(形成テストより) 生徒(中学3年生)の割合60%(全国版生徒質問紙より) ②児童英検の正答率(小学5年生)90%以上 ③児童英検の正答率(小学6年生)85%以上 ④6月実施県学力定着度調査の県平均との正答率の差+1ポイント(中学校3年生)	【今後のスケジュール】 今後も英語によるコミュニケーション能力の素地を養うとともに、学習に対する意欲を高め学力の向上を図る。	【R6成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
4	③	学校ICT活用指導支援事業	H24 ～ R13	児童生徒の情報活用能力を育成するため、学校ICT業務担当員3名を配置し、ICTを活用する授業の支援、教職員向けの校内研修の実施、ICT機器の障害対応を行う。	学校ICT業務担当員:3名配置 情報夏期講習会:13回	①教員にアンケート調査を実施し、授業にICTを活用して指導できる割合:80%以上 ②児童生徒にアンケート調査を実施し、ICT機器活用により、授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	【今後のスケジュール】 教師用アンケート「授業にICTを活用して指導できる」割合について80%以上を目指し、積極的にICT機器を活用した授業の展開を促進させる。	【R6成果目標設定の考え方】 対象者のうち、大多数が理解・習熟していると考えられる値として設定した。
4	④	中学生語学研修派遣	H31 ～ R13	語学施設等でさまざまなシチュエーションを想定した語学研修の機会を与え、異文化理解と実践的コミュニケーション能力の向上をめざし、国際性と国際的視野の育成に資する。 また、国の外交の中核となる官公庁施設を見学することで、国際外交の重要性に対する見聞を深める。	本市中学生12名を、外国語学習研修施設等に語学研修生として、6日間程度派遣する。また、外交関係官公庁等の施設見学により見聞を広めることで、コミュニケーション能力の向上と国際的視野を育成する。	語学学習研修生に対する本事業へのアンケート調査による満足度を96%以上	【今後のスケジュール】 令和6年度は、国内の語学研修を実施するが、令和7年度以降は海外での留学の機会を与え、生活体験を通じた異文化理解と英語による実践的コミュニケーション能力の向上を目指す。 本事業に対するアンケート調査への満足度を96%以上を維持することを着地点とする。	【R6成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
4	⑤	ICT機器活用推進事業	R1 ～ R6	児童生徒の情報活用能力の育成環境を整備するため、小中学校に電子黒板等を整備する。	電子黒板の整備	①教員にアンケート調査を実施し、授業に電子黒板を活用して指導できる割合:80%以上 ②児童生徒にアンケート調査を実施し、電子黒板の活用により、授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	【今後のスケジュール】 教員を対象にした研修会を実施し、ICT機器を活用した情報教育授業を推進する。また、教師及び児童生徒にICT機器を使用した指導や授業が「できた・分かりやすかった」割合についてアンケートを実施し、80%以上を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 ①事業の成果目標の80%以上の設定については、対象者のうち概ね肯定的であるといえる数値として設定した。 ②事業の成果目標の80%以上の設定については、対象者のうち概ね肯定的であるといえる数値として設定した。

R6活動目標(指標):令和6年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。

R6成果目標(指標):令和6年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和6年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R6成果目標(指標)	備 考	
事業番号	バ 細			R6事業内容	R6活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
5		市民防災事業	H27 ～ R13	沖縄県は、島しょ県であるとともに、台風等の自然災害を被りやすい地域であるため、平常時から災害に対する備えを万全にする必要がある。本事業では、宜野湾市地域防災計画及び宜野湾市備蓄計画に基づき、食糧、保存水、生活必需品等の備蓄を行う。	【備蓄食糧及び生活必需品等】 備蓄食糧(主食/レトルト・おかゆ)9,200食 備蓄食糧(副食)5,600食 保存水1,104本、 液体ミルク360缶 アレルギー対応ミルク13缶 経口補水液1,600袋 哺乳ボトル30個 災害備蓄用おむつ(子ども用)852枚 災害備蓄用おむつ(大人用)416枚 災害備蓄用生理用品1,720枚、 毛布、700枚、 簡易トイレ消耗品350セット、 災害備蓄用トイレトペーパー156巻 宜野湾市備蓄計画における数値を10年で80%以上となるよう設定。	【備蓄食糧及び生活必需品等】 備蓄食糧(主食/レトルト) 備蓄率51% 備蓄食糧(主食/おかゆ) 備蓄率8% 備蓄食糧(副食) 備蓄率22% 保存水 備蓄率23% 液体ミルク 備蓄率28% アレルギー対応ミルク 備蓄率100% 経口補水液 備蓄率88% 哺乳ボトル 備蓄率19% 災害備蓄用おむつ(子ども用) 備蓄率17% 災害備蓄用おむつ(大人用) 備蓄率18% 災害備蓄用生理用品 備蓄率18% 毛布、備蓄率20% 簡易トイレ消耗品 備蓄率21% 災害備蓄用トイレトペーパー 備蓄率8% 宜野湾市防災訓練において訓練参加者に対するアンケートの結果「備蓄の重要性を感じた」:「80%以上」と設定。	【今後のスケジュール】 引き続き、宜野湾市地域防災計画及び宜野湾市備蓄計画に基づき設定した必要な備蓄食糧・保存水・生活必需品等を100%備蓄(うち、備蓄目標の20%程度を流通備蓄(災害時協定締結先や小売店))し、災害に強いまちづくりを推進する。また、これまでに整備した資機材を活用した防災訓練を年2回以上は実施することを目標とする。	【R6成果目標設定の考え方】 宜野湾市地域防災計画及び宜野湾市備蓄計画に基づき設定した。
6	①	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(地権者意向調査)	H24 ～ R13	普天間飛行場の跡地利用推進のため、関係地権者や市民の合意形成に向け、情報提供や意向把握等の調査を行う。また、市民によって構成される「NBミーティング」や若手地権者等によって構成される「若手の会」の活動を支援し、合意形成についての取り組みを行う。	市民向けの意向醸成イベント等・地権者向けの意見交換会の実施	市民向けの意向醸成イベント ①来場者数:230人 地権者向けの意見交換会 ②参加者:80人	【今後のスケジュール】 今後も普天間飛行場の跡地利用計画の意向醸成・合意形成の推進を図るため、若手の会及びNBミーティングの活動を支援し、令和13年度までに市民向けの意向醸成イベントの来場者数及び地権者向けの意見交換会の参加者数について、令和6年度の成果目標の10%以上増を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。

R6活動目標(指標):令和6年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。

R6成果目標(指標):令和6年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和6年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業名	計画期間	事業概要		R6成果目標(指標)	備 考	
事業番号	バ 細			R6事業内容	R6活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
6	②	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(共同調査)	H24 ～ R13	宜野湾市と沖縄県が平成19年5月に策定した「行動計画」に基づき、跡地利用の骨格に係る分野別計画の検討と、市民・県民・地権者等に対して情報発信を行い、普天間飛行場跡地利用計画に反映させる。	「全体計画の中間とりまとめ(第2回)」の「計画内容の具体化」段階等における「行程計画」の更新及び実行	「全体計画の中間とりまとめ(第2回)」の「計画内容の具体化」段階等における「行程計画」の更新及び実行に向けた検討調査を行い調査内容報告書の作成	(後年度の成果目標) 跡地利用計画策定後、当該跡地利用計画に対する市民、県民や地権者等の「肯定的な評価」80%以上	中間取りまとめの段階では、具体的な内容やスケジュールが決まっていないため、跡地利用計画策定ご、跡地利用計画に対する、市民・県民・地権者等からの肯定的な評価が80%以上得られていることを成果目標とする。
7		地域キャリア教育支援事業	H30 ～ R13	地域の企業、学校、保護者等が連携した連携協議会を開催、子どもたちが抱える課題の共有、解決策の検討をし、市内小中学校でキャリア教育プログラムを実施することで、児童生徒の就業意識の向上を図る。	・連携協議会の年2回の開催 ・小中学校でのキャリア教育プログラムの実施後のアンケート肯定率80%以上	キャリア教育プログラムの実施後にアンケートをとり、実施する前と比べて、働くことに対する肯定率80%以上を目標とする。	【今後のスケジュール】 キャリア教育プログラムの実施について、コロナの影響もあるが、学校担当者により対応にばらつきがあるため、全小中学校でのプログラム実施に向けて、取組みを強化し、高校進学後に進路に関する追跡調査を実施し、働くことに対する肯定的回答80%以上を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 宜野湾市みらいづくり連携協議会において、アンケート内容の結果を分析し、必要な場合は見直しも検討する。
8		市民会館機能強化事業	H30 ～ R6	建設から40年が経過し施設の老朽化が進んでいる現在の設備等を改修し、市民がより利用しやすい施設として機能向上を図り、文化芸術公演に触れる機会や文化活動を行う場の確保を図るため、宜野湾市民会館の整備を実施する。	施設工事(機械設備完了) 施設工事(電気設備完了) 工事監理業務(機械・電気完了)	工事完了、市民会館開館	【R7成果目標】 利用者実績 24,619人 年間公演数34回	【R7成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案し、設定した。
9		宜野湾市基地返還跡地転用推進基金事業	H24 ～ R13	駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用を推進するため、基金を造成し、土地の先行取得に取り組む。	・基金の積立	●普天間飛行場 特定事業の用に供する土地取得目標 20,000㎡ ※先行取得目標面積 195,400㎡ ●インダストリアルコリドー 特定事業の用に供する土地取得目標 3,000㎡ ※先行取得目標面積 25,000㎡	【今後のスケジュール】 返還後の跡地利用の推進を図るべく、令和13年までの間で、普天間飛行場及びインダストリアルコリドーにおける必要な土地について100%の取得をめざし、計画的かつ継続的に先行取得を行っていく。	【R6成果目標設定の考え方】 普天間飛行場は、過去の実績及び残りの必要取得面積を勘案し設定した。インダストリアルコリドーは、地権者意向調査結果を勘案し設定した。

R6活動目標(指標): 令和6年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。

R6成果目標(指標): 令和6年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。